

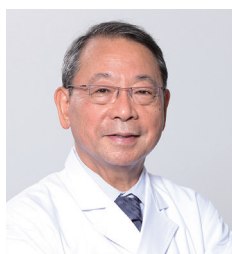
第32回日本女性医学学会学術集会 共催ランチオンセミナー7

腔・外陰部および下部尿路系退行性変化の実態と レーザー療法による Anti-aging 効果」

日時：2017年 11月5日(日) 12:00～12:50

会場：第3会場 リーガロイヤルホテル大阪「桐の間」

座長：太田 博明 先生 (日本女性医学学会名誉会員 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長)



慶應義塾大学医学部卒業。慶應義塾大学伊勢原病院産婦人科部長、米国ラ・ホーヤ癌研究所留学後、慶應義塾大学産婦人科講師・助教授、東京女子医科大学産婦人科主任教授を経て、現職。日本産科婦人科学会名誉会員、日本女性医学学会名誉会員、日本骨粗鬆学会前理事長など数多くの重職を務め、女性医療の分野において第一人者として日本をリードしており、女性のウェルエイジングのための予防医療の重要性を積極的に提唱している。

演題 日本人女性における腔・外陰部および下部尿路系
症状に関する QOL の低下の実態
～ 10,000 人の Web アンケート調査から ～

演者 太田 博明 先生

(日本女性医学学会名誉会員 / 国際医療福祉大学臨床医学研究センター 教授 / 山王メディカルセンター女性医療センター長)

腔・外陰部および下部尿路系症状に関する QOL の実態把握を目的として、2017年2月に web アンケート全国調査を40代以降の一般女性10,000人に予備調査し、さらに有症状者1,031人に本調査を実施した。約45%に症状があり、そのうち約80%が気になると回答した。症状としては腔・外陰部症状よりも尿路症状の方が多く、両者の合併が最も多かった。さらに、性生活のある人では腔・外陰部症状を、ない人では尿路症状をより多く認め、いずれも困惑や不便を感じているが、加齢によるものと放置しており、QOLを損ねていることが明らかになった。

以上から、泌尿生殖器のトータルな脆弱化に対する統合的把握が必要であることが判明した。我々はこれらの現状を認知し、対応法についての情報発信が必要である。

演題 腔・外陰レーザー治療(モナリザタッチ®)の
臨床評価と長期的有効性の検討
～ 370 症例を超える自験例から ～

演者 八田 真理子 先生 (聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田 院長)



聖マリアンナ医科大学卒業。産婦人科専門医。順天堂大学、千葉大学にて研修の後、松戸市立病院産婦人科勤務を経て1998年、聖順会ジュノ・ヴェスタクリニック八田を開院。地域に密着したクリニックとして思春期から更年期まで幅広い世代の女性の診療・カウンセリングにあり、正しい知識の啓蒙活動にも積極的に取り組んでいる。

女性ホルモンの減少により起こる「外陰部の不快症状」や「性交痛」「頻尿や尿漏れ」などの排尿障害は、更年期以降の女性の約半数が経験するとされているが、「症状を言い出せない」「年だから」「ホルモン剤は不安」という理由で放置し、治療を諦めている女性は少ない。当院では2016年3月より腔・外陰レーザー治療を導入し、検診やHRTで受診した外来患者でレーザー治療を希望し同意を得た患者に370症例を超える施術を行った。多くの症例で効果は改善傾向にあり、患者満足度も非常に高い結果を得られている。腔・外陰レーザー治療は、小規模クリニックでも容易に施術が可能であり、安全かつ効果的に「更年期以降の女性の不快症状の改善」が期待できる、新しい治療法の一つになり得ると考えている。今回のセミナーでは実際の施術をビデオ供覧し、長期経過も含めた臨床評価について検討する。

共催：第32回日本女性医学学会学術集会



株式会社 DEKA JAPAN

〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37

TEL:03-5785-2133

url:www.dekajapan.jp



DKSH ジャパン株式会社

DEKA 事業部

〒107-0062 東京都港区南青山 2-21-37

TEL:03-3403-6711